

## 入選

### 八時のおばちゃん

福岡県 長門石小学校 5年 山手 春翔

「今日は、いるかな？」

いつもぼくは、心の中でそう思いながらマンションの階段をおりる。一週間に3回、朝のごみ出し当番。

「おはよう」っておばちゃんがひとこと。いつもそれだけでなにも特別な会話はしないけれど、ぼくの方をチラッと見て、おばちゃんはだまって草むしりしている。

ぼくのお母さんは、朝早く仕事に出かけるので、弟といっしょに学校に行くついでにごみ出しをすることがあたりまえになっている。(生ごみ出しは臭いな、空カン出しはビンとペットボトルと分別しなければならぬから少しめんどくさいなあ)と本当は思っている。

夜、仕事から帰ったお母さんが「今日もごみ出しありがとうね」ってお礼を言ってくれると気分がよい。たまにお礼を忘れて言ってくれないときは少しさみしい。けれど、ごみ出しの日の朝8時は必ずあのおばちゃんが草むしりをしながら「おはよう」って言ってくれる。おばちゃんがいたらなにか安心する。

(ぼくがちゃんとごみの分別しているところを見てくれるかな?)って考えるときもある。

あの8時のおばちゃんの名前も、住んでいるところも知らないし、今まで手伝ってもらったことやなにかもらったこともないけれど、「おはよう」がうれしい。「おはよう」って言ってもらうためにぼくはごみ出しをしているわけじゃないけれど、そのひとことがぼくを元気にしてくれる。ぼくは、またごみ出しをがんばろうと思う。

そういえば、ぼくのお母さんは知らない人にでも笑顔で「おはようございます」って元気にあいさつする。ぼくは、知らない人にあいさつするのははずかしいし、自分からあいさつしたことがないし、少し勇気がいる。

でも、やっぱり8時のおばちゃんにいつも元気をもらっている気がします。ちゃんとぼくのがんばりを見てくれている気がします。

今度からは、ぼくからあいさつしてみよう。「おはようございます」って元気に言ってみよう。そうしたら、8時のおばちゃんに元気をあげられるかな、草むしりがんばれるかなって考えるとワクワクする。

「おはよう」は小さな親切、だってそのひとことでぼくは元気とやる気をもらったから。

8時のおばちゃんに会うのが楽しみだ。